

留学生を校友会・育友会が応援 昼食とりながら懇親「留学生を囲む会」



校友会・育友会主催の「留学生を囲む会」が4月13日（土）、神田キャンパス10号館相馬永胤記念ホールにて開かれ、留学生、日本人学生、教職員など総勢124人が昼食を取りながら親睦を図った。育友会からは4名の役員が参加し、小海祐資育友会長が新入留学生に歓迎の挨拶を述べた。

会では、国際交流会館で留学生をサポートしながら共に生活するレジデントパートナーの日本人学生によるキャンパス紹介、育友会・校友会が用意した景品がもらえるじゃんけん大会、混声合唱団グリークラブのOBによる校歌と応援歌「エール専修」の歌唱など、様々なプログラムが実施され、参加者は盛り上がった。



↑中央、小海育友会長



新入留学生オリエンテーション・歓迎会

同日、「留学生を囲む会」の前には、新入留学生を対象とした「新入留学生オリエンテーション・歓迎会」を実施。日本での就職を考えている留学生に対して、日本型就活の特徴や日本企業の求める人物像などのキャリアガイダンスが行われたほか、学業や日本での生活への疑問や不安に先輩留学生が答えるグループ別懇談会も開かれた。



↑グループ別懇談会

働くことを“場所”から考える 就活前のオンライン講座

就職先を考える際、仕事内容だけでなく「働く場所」「暮らす場所」という観点をしっかりと持つことが大事。キャリア形成支援課では、本格的な就職活動を始める前の学生に向けて、働く・暮らす場所から将来を考えるためのイベントを、オンラインで3回にわたり実施した。4月18日(木)は、場所の観点から将来を考える方法を講義形式で説明。5月23日(木)には、専修大学がUIターン就職促進協定を締結した自治体を中心に合同説明会を開き、各自治体の担当者が地域の魅力、就職活動やインターンシップの情報を提供した。6月8日(土)には全国各地の優良企業が社員の働き方や企業の魅力などを説明する「日本全国 地方企業EXPO～働く・暮らす場所から考える企業研究～」を開催。3回で延べ294名の学生が参加した。

↑ 講座のポスター

反骨の弁護士であり第5代総長 今村力三郎の功績とは

卒業生として初めて専修大学総長を務めた弁護士・今村力三郎（1866-1954）の功績を紹介する企画展が今村法律研究室の主催で5月10日～6月7日に神田キャンパス5号館で開催された。今村が専修大学に寄贈した約9,000点に及ぶ訴訟記録などを公開するシリーズの4回目で、右翼青年らによるクーデター未遂「神兵隊事件」（1933年）にスポットを当て、被告たちの思想的背景となった戦前教育の影響について考察した。大逆事件、五・一五事件などの刑事事件の弁護を担当し、専修大学第5代総長としては私財を投じ大学の復興に尽力した今村の功績を展示を通して伝えている。



↑今村力三郎 ↓会場の様子

